

『福祉のまち、よこすか』をめざして

頒布責任者: 藤野英明、住所: 横須賀市若松町2-31平坂第1ビル3階
印刷者: 株式会社プリントパック、住所: 京都府向日市森本町野田3-1

選挙運動用ビラ
証紙
貼布場所

◎「迷惑で税金のムダづかいのシンボル＝選挙カー」今回も使いません

朝から晩まで大音量で名前ばかり叫んで政策も言わない選挙カー。やっと寝ついた赤ちゃんを騒音で起こされたり、低速で走るので渋滞を起こしたり、選挙期間とはいえども、あなたも迷惑に感じたことがあるはず...

- ▶実は**選挙カーにも税金が使われています(＝公費負担制度)**
- ▶**レンタカー代・ガソリン代・運転手報酬など候補者へ税金で補助が出ます**



NO!選挙カー

「税金のムダづかいを無くす」と訴えてきた僕は、これまで1度も選挙カーを使ったことはありません。徒歩・バス・電車で移動し、メガフォン片手に1人ひたすら政策を訴えてきました。

あなたが必死に働いて納めてくれた税金を、政治家たる者は選挙カーなんかには使うべきではありません。

◎「税金で送れる選挙ハガキ」今回も出しません

住所を教えたことも無いのに、突然送られてくる候補者からの選挙ハガキ。

- ▶実は**選挙ハガキの郵送も税金が使われています(＝候補者1人2000枚)**

もちろん僕は今回も選挙ハガキを出しません。税金を使うのはおかしいから。

◎「税金で選挙チラシを作る条例」にただ1人反対しました

今回の選挙から、選挙中にチラシを配ることが認められるようになりました

- ▶実は**選挙チラシ作成費用も税金で補助が出ます(＝候補者1人4000枚)**

2017年9月議会で、選挙チラシに公費負担を認める為に新たに提案された「議案72号・議会議員(略)の選挙における選挙運動の公費負担に関する条例改正」に**反対したのは、全41議員中、藤野英明ひとりだけ**でした。

***もちろん僕のこのチラシは「自費」で作りました。税金は1円も入ってません。**

◎政治家とは「選挙のやり方」でその後の在り方がわかるものです

一市民だった時に感じた「政治家や選挙のおかしな事」は初立候補から16年、絶対にやりません。名簿を使った電話かけもしません。後援会も作らず、政党や組合などの組織に一切属さないのも同じ理由です。選挙の時の姿勢を見れば「当選後の政治家としての在り方」が分かるものです。

▶**組織に頼らず、税金のムダとも戦いながら当選を実現してきた僕だからこそ市議会でも一切のしがらみなく信念をもって政策を訴えて実現できるのです。**

◎横須賀市議会の「質問王」16年間、通算トップ!

横須賀市議会議員 (無所属・無会派・4期)

- ◆精神保健福祉士
- ◆日本心理学会認定心理士
- ◆認定NPO地域精神保健福祉機構・理事

おれを、こきつかえ!

ふじのひであき 45才

藤野英明



◎プロフィール

- 1974年4月 追浜の湘南病院生まれ
- 横須賀生まれの横須賀育ちです。家族や親戚に政治家はいません。
 - 白鳩幼稚園、武山小学校、武山中学校、県立横須賀高校(高45期)卒業
 - 早稲田大学 教育学部(臨床心理学専攻)卒業 心理学士
 - 東宝株式会社(映画興行部・財務部)にて5年間勤務
- 映画が撮りたいという夢から就職しました。今も映画・演劇が大好きです。
 - 2003年4月 横須賀市議会議員選挙に初当選(現在4期目)
 - 上智大学大学院 社会福祉学専攻 福祉政策コース(中退)
- 福祉政策を専門的に研究すべく受験し入学したものの、12年間植物状態だった父の医療費が高額となり、学費を捻出できなくなって中退しました。
 - 日本福祉大学 福祉経営学部(通信制)卒業 福祉経営学士
- ▶ 当選後10年経った議員に与えられる「市政功労者」「全国市議会議長会在職10年表彰」、当選後15年で与えられる「同15年表彰」を**辞退**しました。
→議員は単に市民の代理であり、**あなたこそが「市政功労者」だからです!**

「いのちを守る」為に16年間全力で走り続けてきました。

チラシでは取り組みを全然書ききれませんでした。
詳しくはぜひウェブでご覧下さい。「藤野英明」で検索！

◎これまでの実績を一部ご紹介します

さらに進めます

自殺に追い込まれる方を減らすために

- ▶2016年、自殺犠牲者数を過去20年間で最少に減らしました(37%減)。
- ▶2018年、初めて「自殺犠牲者がゼロの月」を実現しました。
- ▶自殺対策を唯一訴えてきた僕が議会を離れても、市に取り組みを継続させる為に、2023年度までの取り組みを明記した「横須賀市自殺対策計画」の策定を提案し、実現しました。計画には僕の提案がほぼ取り入れられました。

「性的な多様性」はあたりまえ、のまちに

- ▶11年間にわたって様々な取り組みを実現してきた結果、2017年に横須賀市は「LGBTs関連施策実施全国自治体」1位に選ばれました。
- ▶2013年に提案した「パートナーシップ制度」がついに4月からスタートしました！
- ▶男女二元論だった「男女共同参画推進条例」の改正を提案、実現しました。

「赤ちゃんを産みたい」を全面的に応援します

- ▶市内に専門医療機関が無く、相談したい方は市外に行かざるをえなかった為、「不妊・不育専門相談センター」の設置を提案、2019年度にオープンします！
- ▶流産・死産・新生児死亡などの悲しみを誰にも言えずに苦しんできた方々がグリーフケアを受けられる体制(電話・メール・対面での相談)を作りました。

子どもたちが安心して健やかに暮らせるまちに

- ▶児童虐待防止の為に児童相談所の児童福祉司の充実を設立前から訴え続け、初年度2006年度7名→2019年度17名体制へ増員を実現しました。
- ▶保育士の処遇の実態調査を提案し実現、2019年度に1人月4万円の処遇改善加算を実現しました。さらに人材確保と「保育の質」の向上を進めます。
- ▶中学校に毎日お弁当を持ってこれない生徒がいる実態を調査するように提案し実現、「合計51名」と判明、中学校給食実現のきっかけとなりました。
- ▶外国につながるのがある子どもの不就学ゼロを訴えて調査を提案、家庭訪問や入国管理局との連携が進み、2018年度、居所不明ゼロを実現しました。
- ▶市内学校の敷地内に埋設していた高濃度の放射能除染土を学校の外へ移す為に、横須賀市・市教育委員会・上下水道局と6年間にわたり交渉し、下町浄化センターのコンテナ内への移転を実現しました。

◎これから実現していきます(現在進行中)

自殺に追い込まれる方を減らします

- ▶「自殺対策計画」に掲げた6つの重点施策を必ず全て実行します。
- ▶現在は深夜0時までの「横須賀こころの電話」を24時間体制へ充実させます。
- ▶市役所など公的機関の相談機能を年中無休でオープンさせます。
- ▶LINEなど時代の変化に常に対応した多様で新たな相談体制を作ります。
- ▶相談を待つのではなくどんどん訪問するアウトリーチ体制を充実させます。

「性的な多様性」はあたりまえ、のまちに

- ▶4月に施行された「男女共同参画と多様な性を尊重する社会の実現を推進する条例」を最大限に活用し、差別と偏見のないまちを実現します。
- ▶「LGBTs関連施策実施自治体」全国トップの次は当事者のみなさまの毎日の暮らしの安心感や生きやすさのトップをめざしてさらに取り組みを進めます。

赤ちゃんとかどもを全力で守ります

- ▶不育症治療を受けやすい体制を作り、流産と死産を減らします。
- ▶不妊症、高年妊婦やハイリスク妊婦の方も安心して出産できるまちにします。
- ▶小さく生まれた赤ちゃんや医療的ケアが必要なこどもをはじめ、全てのこどもの命を守る為に、うわまち病院(2025年の移転後は「新病院」)のNICU・GCU・周産期医療・小児救急体制をさらに充実させます。PICU新設をめざします。
- ▶生まれる前からの健康づくりを推進し、思春期から「プレコンセプションケア」の普及啓発を進め、医師会と連携して実践に取り組みます。
- ▶乳児院・児童養護施設をさらに支援するとともに、里親と養子縁組を圧倒的に増やします。実親や家族と離れて暮らす全ての赤ちゃんとかどもが安心して健やかに育つことのできる家庭的な環境を徹底的に増やします。

保健・医療・福祉・介護・教育の専門家として
全ての課題に常に全力で取り組み続けていきます。

声にならない声に耳を傾けるのが僕の仕事です。
どうかあなたの声をきかせてください。

藤野英明事務所 〒238-0007 横須賀市若松町2-31平坂第1ビル3階
携帯 090(3220)9998 ツイッター @ycc_hf Eメール fujinohideaki@gmail.com

あなたの暮らしを守る為に。これからも「おれを、こきつかえ！」

チラシでは取り組みを全然書ききれませんでした。
詳しくはぜひウェブでご覧下さい。「藤野英明」で検索！

◎これまでの実績を一部ご紹介します

さらに進めます

地域まるごとケア・地域共生社会を実現する為に

- ▶ **こども・ひとり親・高齢・障がい・生活困窮・外国人市民**など、タテ割りではなく**まるごと地域**で支えあう為に「**横須賀市地域福祉計画**」策定を提案し、実現。本計画の4月スタートにより、2019年、横須賀は「**地域福祉元年**」を迎えます！
- ▶ **たん吸引や人工呼吸器が必要な医療的ケアや医療依存度の高いこどもとご家族が地域で安心して暮らせる小児在宅ケアの実現を協議する場**を提案、実現。「**横須賀地域小児等在宅医療連絡会議**」が2018年スタートしました。
- ▶ **精神障がいにも対応した地域包括ケア体制の構築を多職種で協議する場の設置**を提案、実現。「**横須賀市精神保健福祉連絡協議会**」が2018年にスタートしました。*実は当初予定より「**3年も前倒しでの開催**」も実現させました！
- ▶ **障がいのある方の市職員採用試験における不適切な応募条件と欠格条項の廃止**を16年前から提案し続けて、2018年ついに実現しました。

特別養護老人ホームの待機期間を短縮しました

- ▶ 特養を新設・増床し、待機期間の短縮を実現しました。以前は**3～4年も待機**させられましたが、現在では**緊急性の高い方はみな1年以内に入所**できます。

市立2病院の改革を進めてきました

- ▶ **2025～40年の医療ニーズ増加に対応**する為、**築50年超で老朽化の激しいうわまち病院の建てかえ**を7年前から提案し続け、昨年ついに**決定**しました。
- ▶ 決算でもチェックできない方法で市が**市民病院の指定管理者に毎年9～12億円も無担保で資金融通**していた問題を発見、翌年度から**中止**させました。

犯罪被害者の支援は明日のあなたを守ることです

- ▶ **犯罪被害者相談窓口の設置**を実現。性暴力・殺人未遂事件の**被害当事者を講師に招いて「市職員研修」と「市民向け講演会」**を実現しました。
- ▶ **市立2病院**に対して、**県・県警・NPOと県産婦人科医会**による協定に基づく「**性暴力被害者支援の協力病院**」となるよう提案、2018年に実現しました。

「図書館は民主主義の砦」です

- ▶ 83万冊しか蔵書が無い為、横浜市と相互利用協定を結ぶように提案し実現、**横須賀市民も横浜市立図書館の蔵書400万冊を利用可能**になりました

◎これから実現していきます(現在進行中)

地域まるごとケア・地域共生社会を実現します

- ▶ **こども・ひとり親・高齢・障がい・生活困窮・外国人市民**など、**分野を超えたあらゆる相談**を市役所まで行かずに**お住まいの地域でお聞きして対応するワンストップの相談窓口**を行政センター所管区域ごとに設置します。
- ▶ **全ての小学校区で「こども食堂」**の立ち上げを支援します。
- ▶ **不登校のこどもや社会的ひきこもりの方々とご家族**を支援し続けます。
- ▶ **重い障がいのあるこどもたちこそインクルーシブ教育**を実現します。
- ▶ **障がいのある方々の恋愛・結婚・出産・子育て**を全力で応援します。
- ▶ **医療・福祉職の方々の勤務のあり方と処遇の改善**をさらに進めます。

高齢の方々が安心して暮らせるまちを実現します

- ▶ **医療+介護+生活支援+住まいの機能**をあわせ持ち、**当直医が24時間居て看取りもできる「介護医療院」**を市内に設置します(現在、市内ゼロ)。
- ▶ **必要な方が必要な時に安心して利用できる成年後見制度**へと改善します。

2025年オープンの新病院を必ずより良い病院にします

- ▶ **うわまち病院建てかえの提案者**として僕は、**久里浜へ移転し建てかえられる新病院がさらに良い医療を提供**できるように全力で取り組み続けます。
- ▶ **うわまち病院移転後の跡地は「横須賀復活」の起爆剤**として**地域のみなさまとともに新たなまちづくり**を進めていきます。

犯罪のないまちづくりをさらに進めます

- ▶ 市ができることは**総合的に全て支援する被害者等支援条例**を作ります。
- ▶ **再犯防止**の為に、**累犯障がい者**をはじめ**加害者の更生支援**を推進します。

条例づくりをさらに積極的に進めます

- ▶ **横須賀市議会の政策立案のエンジン役**である「**政策検討会議**」の一員として僕は「**ごみ屋敷対策条例**」「**がん克服条例**」の**2本の条例**を作りました。今後も課題解決に必要な条例を**スピード感**をもって積極的に作っていきます。
- ▶ 「**がん克服条例**」を活かして**HTLV-1撲滅**の為の取り組みを進めます。
- ▶ **ヘイトスピーチ**をはじめとする「**包括的な差別禁止条例**」作りを目指します。

「命」を守りたい

その一念だけで政治家になりました。

小中学校では不登校がちで孤独だった僕に、高校時代、恋人ができました。彼女は僕の全てでした。やがて彼女は統合失調症になりました。僕は彼女を病から回復させたくて、臨床心理学を専攻する為に大学へ進みました。

しかし、彼女を守ることができませんでした。出会ってから10年が過ぎたある日、彼女は電車に飛び込んで亡くなってしまったのです。

当時の日本には自殺対策がありませんでした。大学で学んだような最新の精神保健医療福祉も横須賀にはありませんでした。もしも彼女が横須賀ではなく東京やもっと良い医療や福祉が受けられるまちに生まれていたら、死ななくてすんだはず。そもそも発病自体しなかったかもしれません。

でも、人は生まれる時代も場所も選ぶことはできません。

だから「変えよう」と決めました。

いつどの街で生まれたとしても誰もが安心して生きていかれるように、僕がこの街を変えようと思えました。会社を辞めて2003年に立候補しました。

政治とは全く無縁でどこの馬の骨とも分からない僕の必死の訴えを市民のみなさまは受け止めて下さいました。そして当選することができたのです。

すぐに僕は全力で走りだしました。

全国の自死遺族の仲間たちやNPOと10万人の署名を集めて国会に働きかけて、2006年に自殺対策基本法の成立を実現しました。横須賀市議会ではゼロからあらゆる対策を提案し、4期16年ではほぼ全ての提案を実現してきました。

彼女が亡くなった2002年（僕が市議になる前年です）、横須賀市の自殺者数は過去最悪の108名でした。2016年には、過去20年間で最少の68名へ犠牲者を減らすことができました。お手本とした自殺対策の先進国のフィンランド（10年間で約30%減少）を上回る結果となりました。

こんなにも自殺の犠牲者を減らすことができました。必死に働き続けた成果ですが、無所属・無党派でひとりきりの僕がここまでたくさんの提案を実現できたのは、あなたが僕を4回も選んで下さったおかげです。

しかし、亡くなった命は決して帰ってきません。

だから今日も僕は全力を尽くして命を守る為に働いています。僕と同じ想いを絶対に誰にもさせない為に。これまでも、これからもずっと、命を守ります。



藤野 英明